

ミュージアムパーク茨城県自然博物館研修・交流会

パートナー企画部会プロジェクト計画の柱の一つである「霞ヶ浦流域の市民活動と交流」の一環としてミュージアムパーク茨城県自然博物館を訪問しました。今年度は積極的に活動している団体の活動現場を見学すると共に、現場での生の意見交換をすることにより、「いいとこ取り」でお互いの活動にフィードバックし、活性化が図れればと企画しました（9/17・22名）。

研修・見学先はセンターの協力を得てセンターから約1時間の距離にある坂東市の「ミュージアムパーク茨城県自然博物館」を見学すると共に現地ボランティアの皆さんと意見交換させて頂いた。今回は、イベント実施中とのこともあり見学しながら各コーナーで活動している皆さんと意見交換を行い、館内のイベント内容、展示物、掲示物等の見学をした。

広大な敷地と多岐にわたる展示に驚くと同時に、これだけの規模の組織をどのように運営しているのか、非常に興味があった。組織としては、上位に「茨城県自然博物館友の会」があり、その中にボランティア組織がある。その下に「役員会」（代表、副代表、チームリーダー、館担当職員、友の会事務局）があり、意思決定しチームリーダー経由でボランティアメンバーにオーソライズされる。この組織をサポートする形で、茨城県自然博物館教育課、ボランティア担当職員、チーム担当（学芸員）がいて、全体を構成し運営にあたっている。

活動チームは、13チーム&1PJ（プロジェクト）があり、各人が各チームに複数参加しながら、チーム担当（学芸員）のもと活動している。ボランティアメンバーは全員が「友の会」の会員であり、生涯学習の一環として現在約90名、平均年齢は59歳で、主に3県（茨城県、千葉県、埼玉県）からボランティア登録されている。

ボランティア活動の位置づけとしては、

- ・ 博物館スタッフと共に、博物館活動を支える
- ・ 活動を通じて、自己啓発を図り、よりよい自己実現を目指す生涯学習者の為の組織である。
- ・ 友の会の中核的存在で、より市民と博物館利用者と博物館を結ぶ重要な役割を持っている。

上記の位置づけを意識して活動を推進しているとのことである。

今回の研修・交流で感じたことは、ボランティア個々が常にお客さんの目線に立ち、自分の専門性や得意分野を生かし、生涯学習の一環として生き生きと自信を持って活動している姿が強く印象に残った。来年以降もこの企画を継続し、多くの交流を通して活動の活性化が図れればと考える。



最後に、都合により膝を突き合わせた交流にはならなかったが、我々センターのパートナー活動紹介資料を渡し、PRをさせてもらった。

（記：パートナー企画部会 尾形）

読み聞かせ活動見学記

9/17 ミュージアムパーク茨城県自然博物館との交流会に参加し、同じ図書Gによる読み聞かせ活動を見学して来ましたので、紹介します。

実演時間の午後2時頃になると担当のボランティアが「カチッ、カチッ」と拍子木を鳴らしながら見学者のいる展示室内をまわり、人集めを行ないます。すると、親子づれの見学者などが自然と（いつも実演されている場所と思われる）展示室内にあるフロント前に集まってきました。

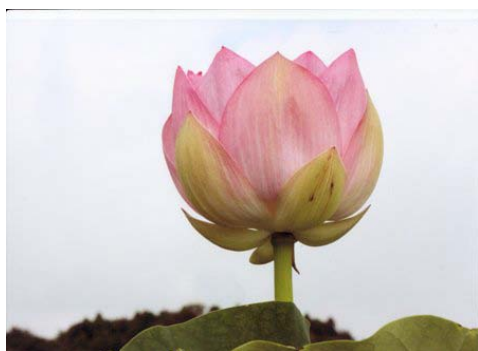
フロントの横には椅子が10脚程並べられ、子ども優先で親は後ろに立って読み聞かせを聞くと云う具合です。当日は昆虫についての紙芝居でした、10分程の紙芝居実演が終わると、こんどはボランティア指導による折り紙で、カブトムシ作りでした。折り紙の題材はシーズン毎で変えるそうです。

紙芝居実演と折り紙作りで17、8分ぐらい、これで1興行、また拍子木を打ち鳴らしながら人集めを行なう、と云った具合です。（短編で何興行かやるようですが、時間の都合で聞けませんでした）

お客さんのいる場所に出向き読み聞かせ実演をすること、折り紙など子ども達の喜びそうなグッズ作りを組み合わせる事などは、今後センター活動でも取り入れたいところです。（記：図書G 浅野）

環境フォト展示会

イベント・記録グループが毎年恒例で行っている環境フォトコンテストの作品の一部をご紹介します。今回のテーマは「蓮田」。



(主催：イベント・記録グループ)

木曾の御嶽山(御岳)に登る

木曾節「♪ 木曾のナー、中乗サン、木曾の御岳サンはナンチャラホイ。夏でも寒いヨイヨイヨイ。裕ナー、中乗サン、裕やりたやナンチャラホイ。足袋を添えてヨイヨイヨイ ♪」で全国的に有名になった木曾の“御嶽山”。古くから日本の山岳信仰のための「霊場の山」としてあがめられている、駿河の富士山、越中の立山、加賀の白山、出羽の月山、とこれまでに登拝を済ませ、唯一残っていた“御嶽山”に、9月上旬、私の参加している登山グループ(穂高倶楽部 代表 塙衛)の一行23名と共に登ってきました。

御嶽山は地形的には飛騨山脈の南端にあり、山の連がりから北アルプスに位置づけられていますが、深田久弥氏の著書「日本百名山」のなかで「このボリュームのある山はそれだけで一王国を形成している。一個の山としてこれだけ図体の大きい存在も稀である。山頂は最高峰の剣ヶ峰を初め、継母岳、摩利支天山、継子岳、などからなっていて、その間に二の池、三の池、水の枯れた一の池、或いは賽ノ河原と呼ばれる広々とした原、ザクザクした外輪壁などがあちこちにあって、はなはだ変化に富んでいる。しかし遠くから望むとそれら総てが一つの大きな頂上となって、そこから裾へ向かっておおらかな斜線を下している」と表現されている如く、長野・岐阜両県にそびえる TP3.067m(剣ヶ峰)の独立峰である。

またこの山は、昭和54年(1978)10月28日に有史以来初めて噴火した乗鞍火山列に属する活火山である。剣ヶ峰頂上南西直下の地獄谷では、今なお硫黄の匂いと水蒸気噴煙を上げている。

9月10日(土) 先週末が台風のため予定の1週間遅れで、前夜21時土浦駅東口を出発した。常磐道、首都高速、中央道を経て木曾山脈を長いトンネルで横断、中山道の木曾福島から王滝村に入り愛知用水の水源である御岳湖(牧尾ダム)を横目に見ながら北進、御岳高原のジグザグ道を登り切って王滝口コース登山口の田の原駐車場(TP2.180m)にAm4:00前に到着した。小休止、朝食の後、登拝の道らしく石の大鳥居をくぐって正面に目指す剣ヶ峰を見ながら出発。台風一過で天気は上々、要所に霊神碑などが祀られている。標高約2.500mの金剛童子まで登ると森林限界となって視界が開ける。富士山、南アルプス、中央アルプスを見ながら登る。8合目、9合目と高度をかせぎ、王滝頂上に出た。石で囲まれた王滝頂上神社を抜けると風景が一変する。一草一木もない荒涼とした斜面の先には剣ヶ峰が大きくそびえる。岩のゴロゴロした道を登ること約30分、剣ヶ峰山荘に着く。ザックを預けて最後に82段の石段を登り石の鳥居をくぐると、御嶽神社奥社が立つ剣ヶ峰に着いた。360度大展望だ。バンザーイ!!!。

早く着いたので「お鉢まわり」をする。地獄谷を真下に見る爆裂壁では硫黄の匂いがきつい。一の池の外輪山から急な尾根を下ると TP2.908m のエメラルド色に輝く水面を持つ、日本最高所の火口湖である二の池だ。日陰になると急に気温が下がるので、急いで山小屋に戻る。

11日(日) ご来光を仰ぐためヘッドランプを付けて頂上へ。5:24分雲海の上に厳かに日の出が見られた。北を見ると北アルプス(乗鞍岳、槍ヶ岳、穂高連峰、立山連峰、剣岳など)の山々が……。朝食後、雲海を見下ろしながら黒沢口登山道を下山・・・最高の山行きでした。



剣ヶ峰・御嶽神社奥社前にて



剣ヶ峰頂上にて(共に後期高齢者)



ご来光を仰ぐ(御嶽山頂上にて)

(記:有吉)

中欧(ブダペスト・プラハ・ウィーン)への旅(最終回)

—ウィーン (オーストリアの首都) —

ウィーンといえばヒトラーが美術学校の入学試験に3回も落第した地だ。画家になっていたら世界の歴史がどう変わったか想像するだけで楽しい。ドイツに戻ったヒトラーはオーストリアに対してあまりいい感情をもたなかったようで、そのため後にオーストリアを併合したのではないだろうが・・・・・・？

オーストリアはドイツと同じゲルマン民族の国だがドイツ人ほどの規律性や生真面目さはなく、少しいい加減で、いつも生活の楽しみを求める国民だそうだ。これがウィーンをカフェ文化や音楽の町に育んだ一因に違いない。

ウィーンの町はどこに行ってもハプスブルク家ゆかりの場所が多かった。ゲルマン・ラテン・スラブの三つの文化の十字路にあたるこの地に、13世紀から約650年間、ハプスブルク王国とともに発展した町だから当然といえば当然だ。ハプスブルク最後の皇帝カール1世の長男が98歳で亡くなったことが7月の新聞に小さく掲載されていた。この王家の家訓「汝、戦争せよ、我は結婚す」はよく知られている。政略結婚でヨーロッパ各地に帝国を拡大し、さまざまな文化や言語を持つ民族を緩やかに束ねたその柔らかさがまれに見る長寿王朝を築いてきたのだろう。

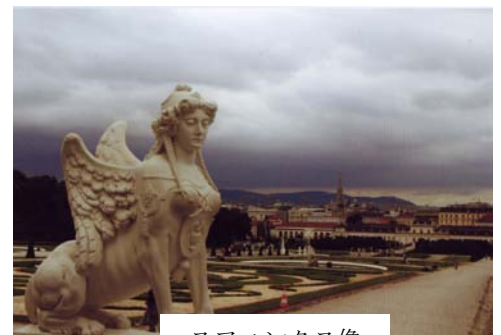
午前中はハプスブルク家の夏の離宮シェーンブルン宮殿とベルヴェデーレ宮殿へ行った。シェーンブルン宮殿の外観はシンプルかつ質素で、外壁はマリア・テレジアが好んだ黄色で統一されている。当初は、「ベルサイユ宮殿をしのぐ宮殿」ということで建設を始めたが、財政難により規模を小さくして完成された。それでも宮殿内部に入ると広間や皇室の部屋に贅を尽くした家具や調度品、それにボヘミアングラスのシャンデリアの華やかさに目を見張った。天上から吊るされているシャンデリアの重さを軽くするため本物の金製ではなく、菩提樹の木に金箔を塗って作ってあるそうだ。大ギャラリーは、天井いっぱいにフレスコ画が描かれて、“会議は踊る”の名文句で有名なウィーン会議の開催された場所だ。昔、世界史で習った記憶がよみがえった。ヨーロッパを荒らしまくったナポレオンの後始末の会議だと・・・・・・。



シェーンブルン宮殿

ベルヴェデーレ宮殿の上宮は小高い丘に建っていて、庭園には

ライオンの胴体と人間の頭をあらわしたスフィンクス像が並んでいた。力と知性の象徴だそうだ。ここからの旧市街の眺めは、宮殿の名が示すように大変すばらしかったが、修理中



スフィンクス像

の建物が多く、あちらこちらでクレーン車のオンパレードであったのは残念であった。内部は、現在、世紀末絵画の美術館になっている。左右対称のデザインで青い屋根が大変印象的な建物であった。



ベルヴェデーレ宮殿

昼食後はカフェ体験があり、イタリアのカプチーノに似たコーヒー（メラランジェ）と甘いチョコレートケーキと生クリーム（ザッハートルテ）がでてきた。店の客はツアー客で殆ど占められ、皆が同じものを飲んで食べている光景を見ると、異国のカフェ雰囲気体験には程遠かった。こんな体験はオプションにすればいいと思いつつ、この後の自由時間が少しでも多く取れるように早く終わるのを祈るばかりであった。

環状道路（リングシュトラッセ：周囲4kmくらい）は昔の市壁の跡地で今は見る影もなかった。19世紀の市の大改造の際に取り壊されたが、オスマントルコの大砲に耐えるように作られていたので壊すには大変苦勞したそうだ。ウィーンの代表的建築は殆どこの周りに建っているので環状道路に沿って散策を開始した。王宮、国会議事堂、市庁舎、ウィーン大学、ヴォチーフ教会……。残念ながら中に入ってじっくり見る余裕もなく、外観をただ拝むに終始した。環状道路内の目抜き通りに入るとさすがに観光客が多く、歩行者天国になっていて、王侯貴族たちのご用達の店や高級店が軒を連ね、各国の人々がのんびりと和やかに“ウィーンブラ”を楽しんでいた。通りの真ん中には、ペスト終焉にたいして神への感謝の気持ちを目いっぱい表現した天高く聳え立つ三位一体像があった。旧市街の中心には、ウィーンのシンボルであり、歴代の皇帝の葬儀があった聖シュテファン大聖堂があった。外部は改修中であったが、ここは中に入ることにした。光あでやかなステンドグラスが迎えてくれた記憶しか今は残っていない。60mの北塔に上がってウィーンの町を一望したが、クレールン車に阻まれ、ここでも美しいウィーンの町を見るができなかった。



ヴォチーフ教会

目玉の美術史博物館に入る時間もなく、足を棒にしながら集合場所のオペラ座の前に戻ってきた。ここでしばらく休んでいると車道の真ん中を、裸に近い人からいろいろな服装をした自転車集団が、後ろに警察の車を引き連れながら走り去っていった。日本の暴走族だろうか、それにはしては少し品が良すぎるが……？

夕食後、観光客向けのクラシックコンサートへ出かけた。堅苦しきもなく、体育館にあるような椅子に座って聴いた。ウィーンのあちらこちらでこのようなコンサートが開かれていて、ヨーロッパ音楽の中心地の1つだと改めて強く感じた。昔は、ハプスブルク家の王侯貴族が多く音楽家を支えてきたのだろうが、今は、こんな形で市民が音楽家を支援しているのだろう。ウィーン合唱団の前身である王宮礼拝堂の少年聖歌隊もハプスブルク家によって創立されたものだ。「トルコ行進曲」や「青きドナウ」などの演奏に耳を傾け、これまでの中欧の旅を思い出し、又、再び来られることを念じつつ、最後の地ウィーンでの夜をしばし過ごした。

(記：平江)

お知らせ

今年度のパートナー全体交流会は、
「平成24年2月25日(土)」に決定いたしました。
詳細は後日ご連絡いたします。

デジタルカメラ(その4) 撮影モードについて

○ シーン別簡単撮影モード

全自動モードで、一眼レフの感覚に慣れてきたら、少しステップアップして見よう。デジタル一眼レフカメラの多くには、簡単撮影モードというポジションがあります。全自動に変わりありませんが、各撮影シーンに特化した設定にカメラが合わせてくれるので、シーンに応じた最適な写真を撮ることができます。これも設定はカメラがしてくれるので、基本はシャッターを押すだけです。モードとシーンを説明していきます。(キヤノン製一眼レフをもとに説明します)

○ ポートレートモード

主に人物を撮影するのに特化したモードです。背景をぼかし、人物像を引き立て、また自然な肌を再現するようにカメラが設定してくれます。

○ 風景モード

色を鮮やかに再現し、どこでもピントが合うようにカメラが調整してくれます。遠くの景色を写す場合に効果的です。画面全体がシャープに写ります。

○ クローズアップモード

花や昆虫などの接写、料理や小物などを撮影するにも適しています。一箇所にピントが合い、周りがボケるような設定にカメラがしてくれます。

○ スポーツモード

動き回るものを撮影するのに適しています。シャッター速度が速めになり、ブレの少ないように、設定してくれます。対象物が動き回ってもピントをロックオンできる機能などもあります。

○ 夜景ポートレートモード

夜景をバックに人物を写すスナップ写真に特化したモードです。手動だとかなり難しい設定が必要ですが、こちらでもカメラが設定してくれます。

これらのモードは初心者の方が手軽に撮影ゾーンを選んで撮影出来るほか、普段このモードで撮影しない方も、とっさのシャッターチャンスが来た時には、素早く対応できるモードなので、覚えておいて損はありません

○ 応用撮影モード

簡単撮影モードで写真を撮るコツを覚えたら、デジタル一眼レフカメラ最大の醍醐味、「手動設定」にもチャレンジしてみましょう。

・PプログラムAEモード

初心者には少し難しい絞りとシャッター速度はカメラが自動で決めてくれます。それ以外の設定 (ISO 感度、ホワイトバランス、AF 機能など) はすべて手動で設定することができます。絞りとシャッター速度の組み合わせも自分で選ぶこともできるので、よりマニュアルに近い操作ができます

・Av 絞り優先モード

絞り値を自分で好きなように設定できます。シャッター速度は自分で選んだ絞りに応じてカメラが自動で決めてくれるので、露出の失敗も少ないです。絞りを開けることで、背景をボカすことができます。

・Tvシャッター速度優先モード

シャッター速度を自分で好きなように設定できます。絞りはカメラ側で自動的に決めてくれます。「動きを撮影する」のに非常に重要で、シャッター速度を決めることで一瞬の表情を捉えることもできますし、シャッター速度を遅くすることで流れる動きを撮影することもできます。ここまで操作できるようになったら、もう初心者は卒業です。より設定が自由にできる「M」マニュアル設定モードでいろいろ自分なりに調整して撮影してみましょう。

(記：目次)

「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

香澄編集部では「香澄」に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センターでの活動内容や、趣味など何でも結構です。写真も大歓迎です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れておいてください。多数の皆さんのご投稿をお待ちしております。

(パートナー情報誌「香澄」編集部)